

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	消防車両の接触事故
3. 体験した事例の中心的要素	火災現場から帰署途中の居眠り運転。
4. 体験した事例の原因・理由	夜半前から翌朝まで林野火災消火作業に従事したことによる睡眠不足及び疲労蓄積。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成23年9月23日 午前6時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：水利が無い林野火災現場の山頂付近。
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	交通事故
7. 事例体験時の活動	火災帰署途中、[林野]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：帰署途中。
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

○当事者A	年齢[37]歳、勤続年数[11]年、現場経験年数[10] 年、階級[消防士長] 同様の活動 [頻繁)、任務 [機関員]
○当事者B	年齢[56]歳、勤続年数[37]年、現場経験年数[37] 年、階級[消防司令補] 同様の活動 [頻繁)、任務 [その他:小隊長]
○当事者C	年齢[38]歳、勤続年数[11]年、現場経験年数[10] 年、階級[消防士長] 同様の活動 [頻繁)、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	当事者D:37歳、現場経験10年(隊員)、当事者E:58歳 現場経験38年(隊員)

[illegible]

	誰が [※] (何が [※])	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	居眠り運転をした。	
経過2	当事者B	助手席にて、疲労蓄積のため居眠りをしてしまい安全確認を怠った。	
経過3	当事者C、D、E	後部座席にて疲労蓄積により居眠り。	
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

● ●

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

--

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	はい

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

疲労蓄積が予想される場合は、活動終了後、休息をとり体調を整えて帰署する。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

今回の現場は山林火災現場が山頂付近であったため、水利が無く、現場から河川までの往復6kmをひとりの機関員に深夜帯8時間連続運転させたことが原因だと思います。
今後の対策については、機関員の交代要員も含め現場の指揮、管理について再確認し、このような事故が再発しないよう取り組む。

○指揮・情報伝達の対策について

長時間の活動による疲労蓄積が予測される場合、無線交信等により隊員の状況を把握する。